



関西 Debian 勉強会担当者 山下 尊也

2008 年 8 月 17 日

1 Introduction

山下 尊也

関西 Debian 勉強会は Debian GNU/Linux のさまざまなトピック (新しいパッケージ、Debian 特有の機能の仕組、Debian 界限で起こった出来事、などなど) について話し合う会です。

目的として次の三つを考えています。

- ML や掲示板ではなく、直接顔を合わせる事での情報交換の促進
- 定期的に集まれる場所
- 資料の作成

それでは、楽しい一時をお楽しみ下さい。

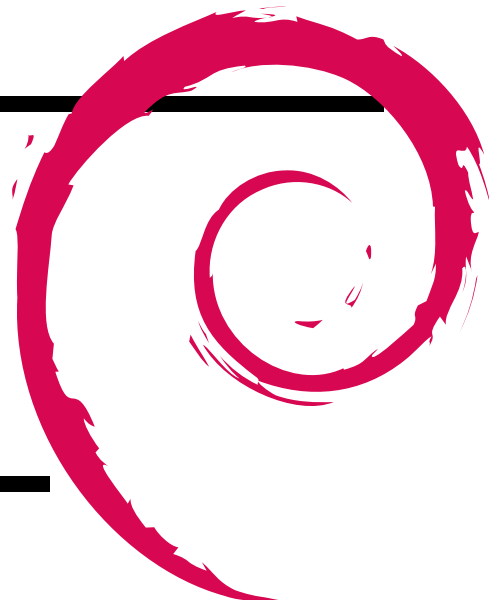
関西地区 Debian ビデオ勉強会

目次

1	Introduction	1
2	最近の Debian 関係のイベント報告	3
3	オープンソースカンファレンス 2008 Kansai を振り返る	4
4	Debian を Windows な PC でも楽しもう ~ 応用編 ~	7
5	今後の予定	16
6	メモ	17

2 最近の Debian 関係のイベント報告

山下 尊也



2.1 第 14 回 関西 Debian 勉強会

2008 年 6 月 29 日に「第 14 回 関西 Debian 勉強会」を福島区民センターにて行いました。勉強会には、合計 19 名の方が参加しました。

2.1.1 発表内容

- pbuilder でパッケージをビルドしてみる
- HotPlug の現状
- SSL のサーバー証明書が失効する時

懇親会は、阪神本線野田駅近くにある「志乃亭^{*1}」にて行いました。海鮮料理がおいしく、また、窓際の席だったため、阪神本線野田駅前の交差点などをゆっくり見ながら、懇親会が出来たと思います。

また、懇親会にて、オープンソースカンファレンス 2008 Kansai にて販売するのがたさん作 T シャツの先行販売が行われました。

2.2 第 15 回 関西 Debian 勉強会

2008 年 7 月 19 日に「第 15 回 関西 Debian 勉強会」を行いました。今回、資料としてまとめましたので、そちらをご覧ください。

^{*1} <http://r.gnavi.co.jp/k029418/>

3 オープンソースカンファレンス 2008 Kansai を振り返る

山下 尊也



関西 Debian 勉強会は、7 月 19 日に、京都コンピュータ学院京都駅前校にて行われましたオープンソースカンファレンス 2008 Kansai に参加しました。

イベント会場にて行ったものは、大きく分けて 3 つになります。

- ブースにて配布したもの
- ブースにて販売したもの
- 関西 Debian 勉強会としてのセッション「第 15 回 関西 Debian 勉強会」

これらを含めた上で、今後、関西 Debian 勉強会がオープンソースカンファレンス（以下:OSC）などのイベントに参加する時、どのように行っていけば良いのか検討したいと思います。

3.1 配布したもの

今回、ブースにて配布したものは以下のものです。

- 勉強会のポストカード
- Debian Live DVD*²

A4 の紙で勉強会について説明した紙を配布すると、他のブースと紙のサイズが同じになるためインパクトが弱くなります。そのため、ポストカードを採用しました。また、ポストカードを採用したため、A4 のカラー印刷に比べ、印刷にかかる費用を抑える事が出来ました。

また、昨年の関西オープンフォーラム（以下:KOF）や前回の OSC の際は、Debian Installer のマルチアーキテクチャーを配布していましたが、1DVD Linux としても使える Debian Live DVD を配布しました。この DVD を用いて Debian のインストールを行う事も出来ます。

*² Software Design 2008 年 8 月号「Debian live-helper」<http://gihyo.jp/magazine/SD/archive/2008/200808> に Debian JP Project の岩松さん担当しました記事がありますので、そちらもご覧ください。

3.2 販売したもの

品目	値段
あんどきゅめんでっど でびあん ^a	1冊 1000円
Tシャツ	1着 2000円
のがたさん作のシール	5枚 100円
岩松さん作のシール	1枚 200円

^a有志で紙媒体に印刷して有償で配布していますが <http://tokyodebian.aliioth.debian.org/undocumenteddebian.html> にて PDF 形式でも配布しています。



岩松さんから私に届いたシールとのがたさん作のシールの違いは、岩松さんのシールがカットイングシールになっていたため、販売する値段に差があります。

今回のイベントでの売上についてですが、表 1 にまとめました。合計で 32200 円の売上になりましたが、ブースとして必要になった金額 (17285 円) を引いた金額 (14915 円) を Debian JP Project に寄付させて頂きました。^{*3}

表 1 今回のイベントでの売上

	単価	個数	合計
Tシャツ (M)	2000	10	20000
Tシャツ (L)	2000	6	12000
ステッカー (のがた)	100	2	200
売上総計			32200

また、販売した T シャツについても東京エリア Debian 勉強会が OSC 2008 Tokyo/Wall^{*4}に参加する予定ですので、M サイズと L サイズをそれぞれ 5 着送らせて頂きました。

3.3 ライトニングトーク

関西 Debian 勉強会では、OSC などのイベント会場にて、普段行っている勉強会と同じ内容のものを開催したいと考えて来ましたが、部屋の確保出来る時間の問題や講師側の問題もあり、ライトニングトークで行う事にしました。

- EeePC with SSD に Debian をインストールして設定してみた
- ある 1 ユーザから見た Debian
- Debian Live やろうぜ
- developer news 翻訳の舞台裏
- DebianLive で Ubuntu 風インストール画面を夢見る

一部のライトニングトークで行った内容につきましては、今後の勉強会にて講師をして頂きたいと考えています。

^{*3} Debian JP Project では、ミラーサーバなどサービス向上を図るために、皆様からの寄付をお待ちしております。詳しくは、<http://www.debian.or.jp/project/donations.html> をご覧下さい。

^{*4} <http://www.ospn.jp/osc2008-fall/>

3.4 イベント終了後

交通の利便性も考え、京都駅近くで懇親会を行うことにしました。

JR 京都駅八条口から徒歩 1 分にあります「焼肉の寿々*⁵」にて関係者の懇親会を行いました。

関係者の中から、「OSC の懇親会にも参加したかった」と声があったため、今後は、懇親会をどのように行うかについても、関係者メーリングリストなどで、改めてアンケートなどをとりたと思います。

3.5 今後改善すべき点

3.5.1 全体として

- OSC に出展する意義を周知・統一しておくべき
 - － 関西 Debian 勉強会を広めるのか？それとも Debian を広げるのか？
- セミナーの練習が必要だった
- セミナーとブースについてアンケートを実施した方がよい
- 一部の人が OSC のメーリングリストには入っているが、連絡事項について周知出来ていない点が多かった
 - － 貼り付け用の両面テープは受付 (事務局) で配布するなどの注意事項
 - － ブースは、テーブルの半分のスペース
- 負担が一定の人に集中し過ぎていた
- 関西 Debian 勉強会が、Debian 勉強会ではなくて、ただのユーザーグループになっている可能性
- OSC 運営側にも参加する
 - － ブースの大きさなど意見を出す
- Ubuntu Japanese Team と共同で何かイベントを開催する

3.5.2 ブースについて

- 会場の設置の際に使った両面テープが強力過ぎて、跡を残さないように剥がすのが大変だった
 - － 窓ガラスに両面テープを貼らない
 - － 壁がガラスの会場が多いため、ゴム吸盤が確実
- ポストカードサイズにするなら、はがきとして使えるデザインにする
- POP をもっと大きいものにする
- 服を売る際は、ハンガーがあった方がよい
- どんな活動をしているかが、外から見えなかった
 - － 関西*BSD ユーザ会のように、最近の活動内容をお品書き風を書く
 - － 活動風景の写真を PC に表示するのもいいかもしれない
- ブーススタッフの人数が十分確保できそうな場合は、人数を決めておくべき
 - － 2 人ぐらいがベスト？
 - － 組み合わせなども考慮した方がよい
 - － スタッフの数が多いと、机の前に大量に占拠してしまう
 - － スタッフルームに、関西 Debian 勉強会のメンバーが溜まっていた
 - － スタッフルームにて、私事をする人がいた

*⁵ <http://www.h4.dion.ne.jp/~juju/index.htm>

4 Debian を Windows な PC でも 楽しもう ~ 応用編 ~

名村 知弘



4.1 はじめに

coLinux の配布サイト*⁶では、Debian etch のイメージファイルが配布されていますので、coLinux をインストールすると、すぐに Debian を楽しむことができます。

しかし、配布されているイメージファイルは、ディスクイメージのサイズが 1GB だったり、どのようなパッケージがどういった設定でセットアップされているのかなど、中身が非常に気になります。

ダウンロードすればお手軽に使えるというのは良いのですが、将来の拡張のためパーティション構成を変更したり、イメージの内容をいちいち確認するのも面倒ですし、それならばいっその事、新規インストールしてみよう。と言うことで、半ば強引な導入ですが、coLinux に Debian を新規インストールする方法と、coLinux にインストールされた X アプリケーションを起動する方法をご紹介します。

説明するにあたり、以下の前提で記載していますので、適宜それぞれの環境に応じて読み替えていただくようお願いいたします。

1. coLinux を c:\coLinux にインストールしているものとしています。
2. coLinux はネットワーク共有にて接続されているものとしています。
3. Debian は etch を使用するものとしています。
4. Debian は IP アドレス 192.168.0.10 が割り当てられているものとしています。

4.2 coLinux に Debian を新規インストール

coLinux への Debian インストール手順は以下のようになります。

1. Debian をインストールするためのディスクイメージの作成
2. Debian の ISO イメージを入手
3. initrd イメージの取得
4. coLinux を Debian インストール用に設定
5. Debian のインストール
6. coLinux を通常起動用に設定

*⁶ <http://sourceforge.net/projects/colinux/files>

4.2.1 Debian をインストールするためのディスクイメージの作成

coLinux では、1 つのパーティションに対して 1 つのディスクイメージファイルを用意することで、HDD をエミュレートしています。ディスクイメージファイルはあらかじめ必要なサイズを割り当てる必要があります、coLinux が割り当てられたサイズを超えて書き込むことはできません。(つまり、HDD が一杯になったら書き込めないのと同様、ディスクイメージファイルに割り当てられたサイズを使用すると、それ以上書き込みが行えなくなります)

今回は以下の構成でインストールを行いたいと思います。

領域	サイズ	ディスクイメージ
/	2GB	root_fs
/home	2GB	home_fs
swap	500MB	swap_fs

表 2 パーティション割り当て

ここでは 3 パーティション使用するため、3 ファイル作成する必要があります。また、あらかじめ使用するサイズを割り当てる必要があるため、Windows の fsutil コマンドを使用します。fsutil は指定されたファイル名、サイズで空ファイルを作成することができます。

ファイル名とサイズは表 2 に基づいて決定していますので、お手持ちの PC のディスク空き容量などを考慮しながら、適切なサイズを決定していただければと思います。

コマンドプロンプトを起動し、c:\coLinux に cd してから、以下のコマンドを実行するとファイルが作成されます。

```
fsutil file createnew root_fs 2147483648
fsutil file createnew home_fs 2147483648
fsutil file createnew swap_fs 536870912
```

4.2.2 Debian の ISO イメージを入手

まずは Debian をインストールするための、ISO イメージを入手^{*7}します。ここでは debian-40r4a-i386-businesscard.iso を使用します。

4.2.3 initrd イメージの取得

c:\coLinux には、coLinux 起動用の initrd イメージが用意されていますが、Debian インストール用に coLinux を起動するためには、インストール用に起動するための initrd イメージが必要となります。

インストール起動用と通常起動用の initrd イメージを混同してしまわないように、c:\coLinux にあるオリジナルの initrd.gz を、initrd-normal.gz とリネームしておきます。

インストール用の initrd イメージは、Debian の ISO イメージに収録されているため、ISO イメージを展開できるツール、Explzh^{*8}や、TUGZip^{*9}を使用して取り出します。

展開ツールをインストールして起動し、Debian の ISO イメージを開きます。ISO イメージの中の、「/install.386/initrd.gz」を取り出し、こちらも通常起動用の initrd イメージと混同してしまわないように、initrd-install.gz とリネームして、c:\coLinux に保存します。

^{*7} <http://www.debian.org/CD/netinst/>

^{*8} <http://www.ponsoftware.com/archiver/>

^{*9} <http://www.tugzip.com/>

4.2.4 coLinux を Debian インストール用に設定

coLinux をインストール用に起動するためのファイルは全て揃いましたので、これらファイルを使用して Debian インストールが行われるよう、coLinux の設定を変更します。

c:\coLinux に debian-install.conf という名前でファイルを作成し、以下の内容を記載して保存します。

```
kernel=vmlinux
initrd=initrd-install.gz
mem=512
cobd0="\DosDevices\C:\coLinux\swap_fs"
cobd1="\DosDevices\C:\coLinux\root_fs"
cobd2="\DosDevices\C:\coLinux\home_fs"
cobd3="\DosDevices\C:\coLinux\debian-40r4a-i386-businesscard.iso"
cofs0="\DosDevices\C:\coLinux"
eth0=tuntap
root=/dev/cobd1
ro
```

上記設定ファイルを簡単に説明すると、2行目でインストール起動用の initrd イメージを指定し、3行目で coLinux の使用するメモリサイズを指定します。4~6行目で使用するディスクイメージ (今回は3つ) を指定します。7行目で Debian の ISO イメージを指定します。8行目で coLinux インストールディレクトリを指定します。10行目で「/」ファイルシステムのデバイス名を指定します。

4.2.5 Debian のインストール

準備が整いましたので、debian-install.conf を使用して coLinux を起動します。コマンドプロンプトを起動し、c:\coLinux に cd してから、以下のコマンドを実行します。

```
colinux-daemon.exe -t nt "@c:\coLinux\debian-install.conf"
```

そうすると、いつもの見慣れた?インストール画面が起動されますので、以下の手順に従ってインストールを進めていきます。

まずはインストーラの環境設定を行います。以下の手順に従ってインストール作業を進めていきます。

```
# インストーラで使用する言語を選択します。
* English (Japanese ではインストール中に表示されるメッセージが文字化けします)

# 国を選択します。
* Japan ( <other>   <Japan> )

# キーマップを選択する。
* Japanese (ご使用のキーボードに合わせてください)

# CD-ROM のドライバは coLinux が設定してくれるため必要ありません。
* <No>

# CD-ROM のドライバは coLinux が設定してくれるため、手動で使わないよう設定します。
* <Yes> 「none」
```

ここまで実行すると、図1のような、CD-ROM をマウントする画面が表示されます。

しかし、インストーラは coLinux が設定してくれた CD-ROM ドライブにアクセスするためのデバイスファイルを作成していないため、このままでは CD-ROM にアクセスすることができません。

そこで、coLinux が設定してくれた各種デバイスにアクセスするための、デバイスファイルを作成します。

[ALT] + [F2] キーを押し、インストーラ画面からターミナルに移動します。移動すると、図2のような画面が表示されます。

ターミナルにて以下のコマンドを入力します。

```
# デバイスファイル/dev/cobdx を作成します。
i=0; while [ $i -lt 32 ]; do mknod /dev/cobd$i b 117 $i; i='expr $i + 1'; done

# 環境によっては「mknod: /dev/cobdx: File exists」というメッセージが表示されることがありますが、
# これは既に/dev/cobdx が作成されているということですので、
# そのまま次に進んでもらっても問題ありません。

# デバイスファイル/dev/cofsx を作成します。
i=0; while [ $i -lt 16 ]; do mknod /dev/cofs$i b 117 $i; i='expr $i + 1'; done
```

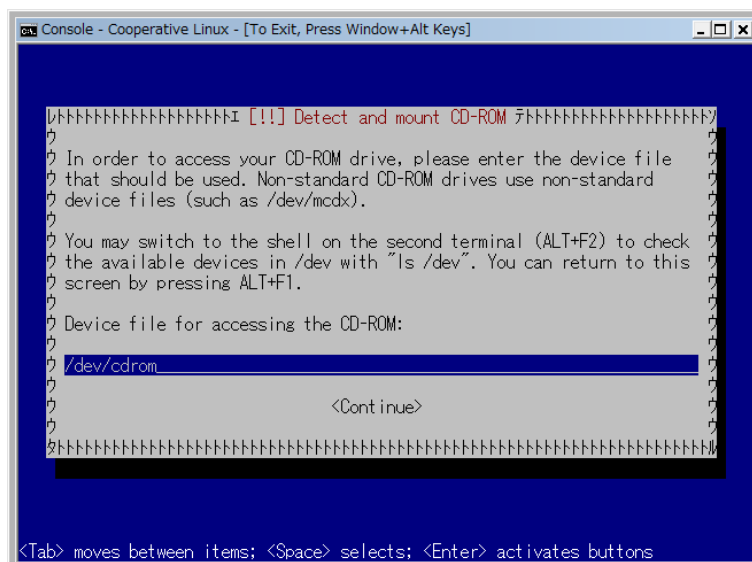


図 1 CD-ROM のマウント

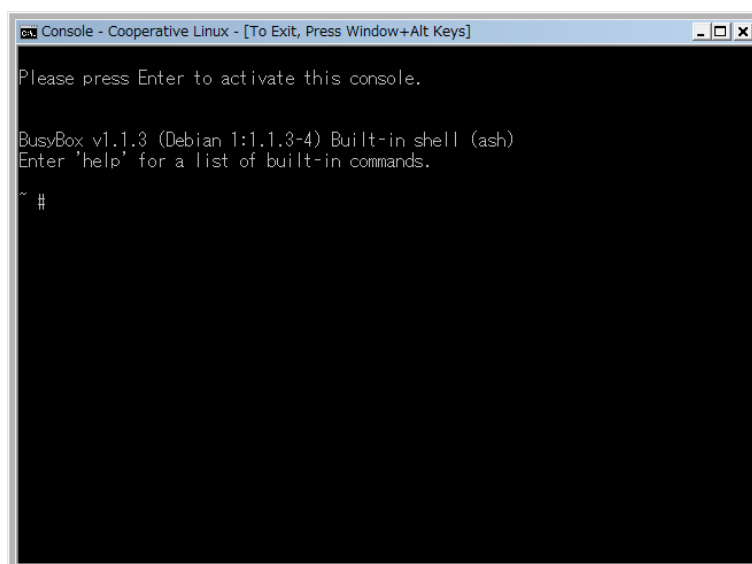


図 2 ターミナルに移動

これで coLinux が設定してくれた CD-ROM をマウントすることができるようになりましたので、[ALT] + [F1] キーを押し、ターミナルからインストーラ画面に戻ります。戻ると、先程中断した図 1 の画面が表示されますので、以下の手順に沿ってインストール作業を進めていきます。

```
# CD-ROM をマウントするため、Debian の ISO イメージが設定されているデバイスファイルを指定します。
# 今回は debian-install.conf の 7 行目にて以下のように設定していますので、「/dev/cobd3」を指定します。
# cobd3="\DosDevices\C:\software\coLinux\debian-40r1-i386-businesscard.iso"
* 「/dev/cobd3」と入力し<Continue>

# カーネルモジュールは coLinux のものを使用しますので、読み込まずにインストールを続けます。
* <Yes>

# ネットワークを設定が行われますが、Windows 側で設定が済んでいれば DHCP で取得できますので、
# 特に何かする必要はありません。
```

ネットワークの設定が終わると、以降のインストールは Debian のインストールでは行えませんので、続きの作業は手動にて行っていきます。

[ALT] + [F2] キーを押し、再びターミナルに移動し、以下のコマンドを順次実行していきます。

```

# まずは swap ファイルを作成し、有効化します。
# 今回は debian-install.conf の 4 行目にて以下のように設定していますので、
# 「/dev/cobd0」に対して mkswap を実行します。
# cobd0="\DosDevices\C:\software\coLinux\KDM#16\swap_fs"
mkswap /dev/cobd0
sync; sync; sync
swapon /dev/cobd0

# 次に、coLinux をインストールするために用意したディスクイメージに
# ext3 ファイルシステムを作成します。
# 今回は debian-install.conf の 5, 6 行目にて以下のように設定していますので、
# 「/dev/cobd1」, 「/dev/cobd2」に対して mke2fs を実行します。
# cobd1="\DosDevices\C:\software\coLinux\KDM#16\root_fs"
# cobd2="\DosDevices\C:\software\coLinux\KDM#16\home_fs"
mke2fs -j /dev/cobd1
mke2fs -j /dev/cobd2

# インストール対象の「/」をマウントするためのディレクトリを作成し、マウントします。
mkdir /target
mount /dev/cobd1 /target
cd /target

# coLinux 付属のカーネルモジュールを使用するため、\verb|c:\coLinux|をマウントし、
# \verb|c:\coLinux\vmlinux-modules.tar.gz|を/target に展開します。
mkdir -p /mnt/windows
mount -t cofs /dev/cofs0 /mnt/windows
tar -zxvf /mnt/windows/vmlinux-modules.tar.gz

# /target に coLinux の設定するデバイスファイルを作成します。
mkdir /target/dev
i=0; while [ $i -lt 32 ]; do mknod /target/dev/cobd$i b 117 $i; i=$((i+1)); done
i=0; while [ $i -lt 16 ]; do mknod /target/dev/cofs$i b 117 $i; i=$((i+1)); done

# /target に etc ディレクトリを作成し、各種設定ファイルを作成しておきます。
mkdir /target/etc

# HTTP プロキシが必要な環境に接続されている場合、プロキシの設定を行います。
export http_proxy=http://myproxy.co.jp:8888

# debootstrap にて最小構成の Debian ディレクトリツリーを作成します。
# ここでは etch を指定していますが、sid や lenny を指定することもできます。
debootstrap --arch i386 etch /target http://cdn.debian.or.jp/debian/

# /target に chroot し、インストール環境を設定していきます。
chroot /target

# /target/etc/fstab にインストール後のマウント情報を作成します。
cat <<EOF > /etc/fstab
/dev/cobd0 swap swap defaults 0 0
/dev/cobd1 / ext3 defaults 1 1
/dev/cobd2 /home ext3 defaults 1 1
proc /proc proc defaults 0 0
EOF

# ネットワーク関連を設定します。
# お使いの coLinux の設定に合わせて行ってください。
cat <<EOF >> /etc/network/interfaces
auto lo
iface lo inet loopback
auto eth0
#iface eth0 inet dhcp
iface eth0 inet static
address 192.168.0.10
netmask 255.255.255.0
gateway 192.168.0.1
EOF

echo "nameserver 192.168.0.1" > /etc/resolv.conf

echo "coLinux" > /etc/hostname

cat <<EOF >> /etc/hosts
127.0.0.1 localhost
192.168.0.10 coLinux
EOF

ln -sf /usr/share/zoneinfo/Japan /etc/localtime

# shadow パスワードを有効にします
shadowconfig on

# apt リポジトリを設定します。
# ここでは etch を指定していますが、sid や lenny を指定することもできます。
cat <<EOF > /etc/apt/sources.list
deb http://cdn.debian.or.jp/debian etch main contrib non-free
deb-src http://cdn.debian.or.jp/debian etch main contrib non-free
EOF

# ロケーション関連を設定します。
aptitude update
aptitude -y install console-common
dpkg-reconfigure console-data

aptitude -y install locales
dpkg-reconfigure locales

```

これで基本となるインストール作業は完了したため、Debian インストーラを終了させます。

[ALT] + [F1] キーを押し、ターミナルからインストーラ画面に移動し、以下の手順に従ってインストーラを終了させます。

```
# Debian インストーラを終了させます。  
[ESC] キーを押下し、ネットワーク設定画面に戻ります。  
もう一度 [ESC] キーを押下し、メインメニューに戻ります。  
メニュー一番下の「Abort the installation」を選択し [Enter] を押下します。  
* <Yes>
```

これで coLinux が再起動されますが、設定ファイルがインストール起動用となっているため、再び Debian インストーラが起動されますので、一旦 coLinux を終了させます。

4.2.6 coLinux を通常起動用に設定

coLinux への Debian インストールは完了しましたので、通常起動するために coLinux の設定を変更します。

coLinux インストールディレクトリに `debian.conf` という名前でファイルを作成し、以下の内容を記載して保存します。

```
kernel=vmlinux  
initrd=initrd-normal.gz  
mem=512  
cobd0="\DosDevices\C:\software\coLinux\kdm\swap_fs"  
cobd1="\DosDevices\C:\software\coLinux\kdm\root_fs"  
cobd2="\DosDevices\C:\software\coLinux\kdm\home_fs"  
eth0=tuntap  
root=/dev/cobd1  
ro
```

あとは、この設定ファイルを使用して coLinux を起動すると、先程インストールしたオリジナルイメージで起動することができます。コマンドプロンプトを起動し、`c:\coLinux` に `cd` してから、以下のコマンドを実行します。

```
colinux-daemon.exe -t nt "@c:\coLinux\debian.conf"
```

4.3 Xming による X アプリケーション起動方法

coLinux にはディスプレイデバイスが実装されていないため、そのままでは CUI 環境でしか使用することができません。しかし、X サーバや VNC、ssh の X11 フォワードなどの機能を使用すると、X アプリケーションを使用することができます。

今回は Xming を使用した、ssh の X11 フォワードと XDMCP について紹介したいと思います。

ssh の X フォワードでは必要ないのですが、XDMCP 接続では、ログインマネージャを使用する必要がありますので、ログインマネージャとして GDM を使用した XDMCP 接続について説明したいと思います。

大まかな手順は以下のようになります。

1. Xming のインストール
2. X アプリケーションのインストール
3. ssh の X フォワードで起動
4. XDMCP で起動

4.3.1 Xming のインストール

Xming の配布サイト^{*10}から、Xming のインストーラ^{*11}とコア X フォントのインストーラ^{*12}をダウンロードし、インストールします。

^{*10} <http://sourceforge.net/projects/xming/files>

^{*11} 執筆時では Xming-6-9-0-31-setup.exe が最新版となっています

^{*12} 執筆時では Xming-fonts-7-3-0-22-setup.exe が最新版となっています

4.3.2 X アプリケーションのインストール

起動する X アプリケーションのインストールを行います。ここでは iceweasel をサンプルとして起動してみたいと思いますので、iceweasel をインストールしておきます。

また、XDMCP で起動する方法もご紹介いたしますので、XDMCP 接続時のログインマネージャとして GDM をインストールします。

```
sudo aptitude install ssh gdm iceweasel
```

GDM をインストールすると、Debian 起動時に GDM が起動しようとするのですが、ディスプレイデバイスを持たない coLinux では GDM 起動に失敗してしまい、図 3 のようなエラー画面が表示されます。

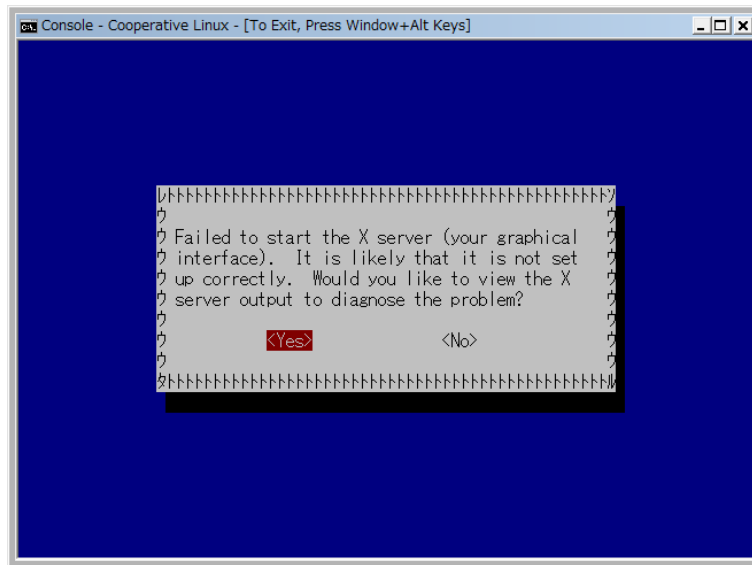


図 3 ターミナルに移動

エラーが表示されても、問題なく使用できるですが余り気持ちの良いものではないため、GDM のインストールが完了したらすぐに、GDM が起動しないように設定します。

/usr/share/gdm/defaults.conf を以下のように書き換えます。

```
[servers]
- 0=Standard
+ #0=Standard
```

次に/etc/gdm/gdm.conf を以下のように書き換えます。

```
[xdmcp]
+ Enable=true
```

設定がうまく行えたことを確認するため、一旦 Debian を再起動し、エラーが表示されないことを確認します。

4.3.3 ssh の X フォワードで起動する

Xming には、XLaunch という Xming を指定した設定で起動するためのツールが附属しています。ここでは XLaunch を使用して起動してみたいと思います。まず XLaunch を起動すると、図 4 のような Display setting 画面が起動されます。

起動方法が 4 種類あるのですが、表 3 のような種類があります。

Fullscreen や One window は XDMCP でも起動できますので、ここでは Multiple window で起動してみます。

Multiple window を選択して「次へ」を選択すると、Session type 画面が表示され、セッションタイプについて聞

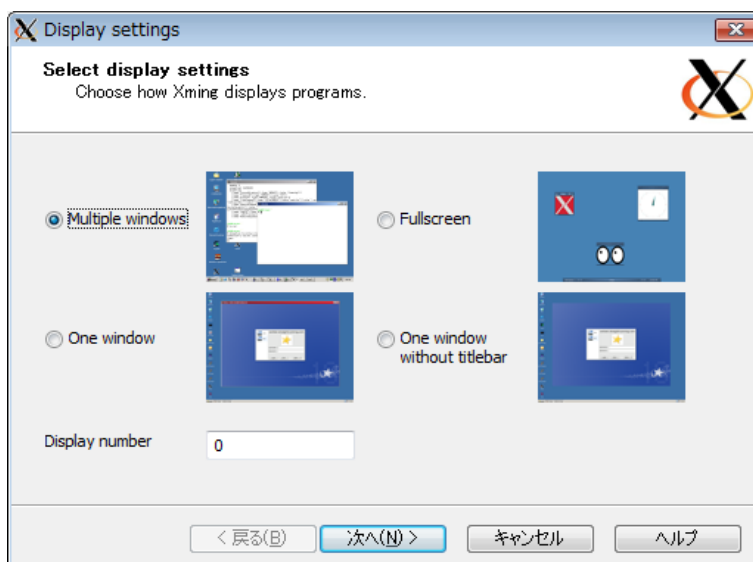


図 4 XLaunch 起動

モード	表示方法
Multiple window	起動するアプリケーション毎に window が起動します
Fullscreen	X Window System がフルスクリーンで起動します。
One window	1 つの window に X Window System が起動します
One window whithout titlebar	One window と同様ですが、タイトルバーが表示されません

表 3 ディスプレイ設定の選択

かれますので、SSH を使用する Start a program を選択して「次へ」を選択します。

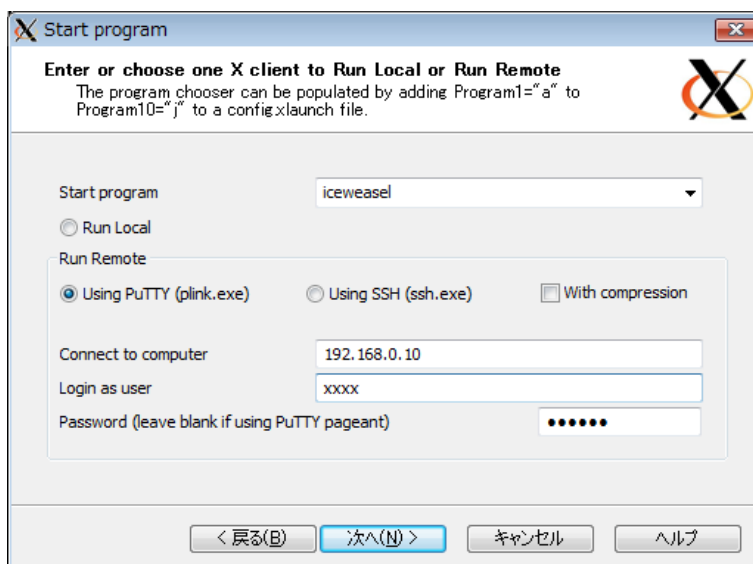


図 5 XLaunch 起動

すると図 5 のような Start program 画面が表示されますので、Start program に起動する X アプリケーションを指定します。ここでは iceweasel を起動するため、iceweasel と入力します。Using PuTTY(plink.exe) を選択し、Connect to computer に coLinux の IP を入力します。coLinux の名前解決ができるのであればホスト名を入力し

でも問題ありません。Login as user にユーザ名を入力し、パスワードを入力し、「次へ」を選択します。

Additional parameters 画面が表示されますが、特に指定する必要はありませんので、そのまま「次へ」を選択します。

Finish configuration 画面が表示されますので、「完了」を選択すると、iceweasel が起動します。「Save configuration」を選択すると、今回行った設定を保存することができます。Include PuTTY Password as insecure clear text にチェックを入れると、設定ファイルにパスワードを保存することができますが、平文で保存されますので注意が必要となります。

保存された設定ファイルをダブルクリックすると、Xming が起動され、ssh で接続を行い、iceweasel を簡単に起動することができるようになります。

4.3.4 XDMCP で起動する

XDMCP の起動では、表 3 のモードの内、Multiple window 以外の起動方法で表示することができます。ここでは One window で起動してみます。

XLaunch を起動し、Display setting 画面にて One window を選択して「次へ」を選択すると、Session type 画面が表示され、セッションタイプについて聞かれますので、Open session via XDMCP を選択して「次へ」を選択します。

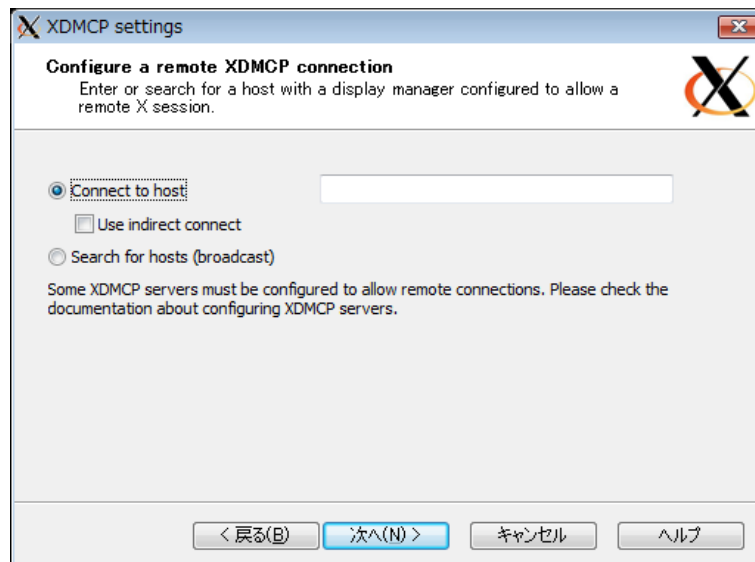


図 6 XLaunch 起動

すると図 6 のような XDMCP setting 画面が表示されますので、Connect to host に coLinux の IP アドレスを入力します。coLinux の名前解決ができるようであればホスト名を入力しても問題ありません。Additional parameters 画面が表示されますが、特に指定する必要はありませんので、そのまま「次へ」を選択します。

Finish configuration 画面が表示されますので、「完了」を選択すると、GDM が起動し、ログイン画面が表示されます。

「Save configuration」を選択すると、今回行った設定を保存することができます。ログインが完了すると、GNOME 環境が起動しますので、Application Internet Iceweasel Web Browser を選択し、iceweasel を起動します。

以上駆け足でしたが、coLinux に Debian を新規インストールしたり、ディスプレイデバイスを持たない coLinux での X アプリケーションの起動について紹介いたしました。

5 今後の予定

山下 尊也



5.1 次回

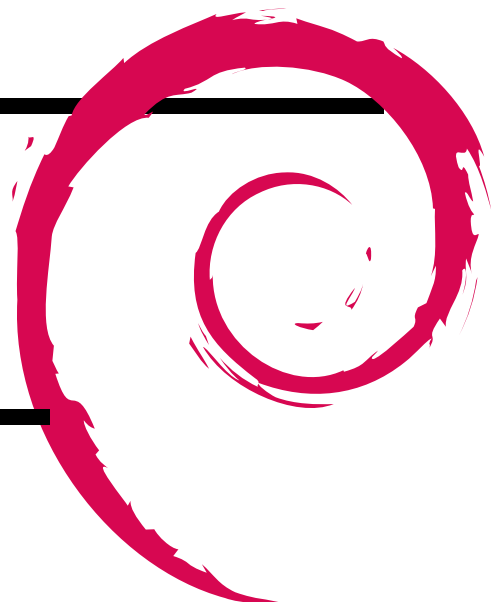
次回は、2008 年 9 月中旬に第 17 回 関西 Debian 勉強会を開催する予定です。

5.2 KDR のお知らせ

関西 Debian 勉強会の有志で関西 Debian 勉強会とは独立した形で、週に一度、読書会 (KDR) を開いています。詳しくは KDR 公開用ページ^{*13} をご覧下さい。

^{*13} <http://qwik.jp/kdrweb/>

6 メモ



関西下ヒアノ勉強会



Debian 勉強会資料

2008年8月17日 初版第1刷発行
関西 Debian 勉強会（編集・印刷・発行）
